

第3回栗東市子ども・子育て会議 会議録要旨

日時・場所	令和7年11月4日（火） 午後4時30分～午後6時20分 栗東市役所2階第1会議室
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 一部不可 ・ 不可
出席委員	山田容委員（会長）、中川章子委員（副会長）、山元真紀委員、伊藤恵理委員、石垣江里子委員、白井洋一委員、浦谷ふみ子委員、木築野百合委員、本間由樹委員、井上和子委員、日野貴博委員、榎本祐子委員
欠席委員	長岡由美委員
事務局	こども家庭局長、幼児課長、幼児課参事、こども家庭センター所長、こども家庭センター課長補佐2名、発達支援課長、子育て支援課長、子育て支援課係長2名、子育て支援課主幹、子育て支援課子育て支援係担当 ジェイエムシー株式会社
事 項	1 開会 2 挨拶 3 議事 栗東市子ども・若者施策の課題について【資料1】 4 その他 ・「栗東市こども計画(仮称)」策定に伴うアンケートの実施について【資料2】 ・大宝東児童館の移設と児童館の再編について【資料3】 5 閉会

1 開会

- ・事務局より傍聴希望者がいないことを報告した。
- ・第三号委員の交代を報告した。

2 挨拶

- ・会長挨拶

3 議事

（議事1）

栗東市子ども・若者施策の課題について【資料1】

- ・事務局が資料1の説明を行った。
- ・こども計画策定にあたっての課題について、「A. 子育て」「B. 子ども」「C. 若者」の3つのテーマについて個人ワーク・グループワーク形式で検討を行った。

A. 子育て

会長	子育ての在り方に関する課題や必要な工夫について、個人で考えた内容を付箋に簡潔に書き、隣の人と意見交換していただきたい。
個人ワーク・グループワーク	
委員	急に用事や仕事が入ったときや、病気になったときに子どもを見ているところが栗東市には少ないと聞いているため、そういったところが必要になるのではないかな。
委員	情報発信について、栗東市だけの情報でなく、近隣市や民間イベントも含めた広い情報がないか。出かけられる場所がカレンダーのような形式で閲覧できると嬉しい。
委員	地域との関わりが大事である。災害や防犯など、何かが起こったときに横のつながりが強ければ強いほど安心感が生まれるが、その点が希薄になっている。

会長	流入人口が多いほど住民同士のつながりが生まれにくい可能性がある。こうした状況の中で、防災は住民同士の関係づくりの良いきっかけになり得る。
委員	栗東市の様々な施策が市民に全部行き渡っているか疑問であり、利用したいと思ったときにきちんと利用できるような情報発信の方法を確立すべきである。例えば、スマホなどで検索すると施策につながるなどがあると良いのではないか。
会長	情報発信が一元化されているか、そして多様な人にとって分かりやすいかが重要である。 また、AIで情報収集する人も増え、子育ての場面でAIがどのように活用されているのか、実際の当事者の声を聞く必要がある。
委員	ワークライフバランスの点で、会社が育休を取らせやすい仕組みがあると良い。
会長	会社が取らせられる状況をどうつくるか、大事なところである。子育てだけではなく、親が休める時間や場所、愚痴を言える空間なども大事である。
委員	第3期子ども・子育て支援計画は市民にも十分理解されていない。 また、今回のワークでも意見が出てくるということは、計画が動いていないように感じられる状況にある。新しい課題を挙げることも重要だが、市民や子育て当事者にとって本当に大切な点を見極める必要がある。今回示された意見は重要であり、次期子ども計画では「実際に行動につながる計画」として、策定することが大事である。
会長	計画を作った側の理解と、伝えたい相手側の理解には大きな差があるため、当事者側のニーズに合わせた情報発信が大事である。

B. 子ども

会長	子どもに対する支援の課題について個人で考える時間、グループで考える時間をとる。その後、グループの代表が前に出て付箋を貼り、意見を集約する。
個人ワーク・グループワーク・付箋貼り	
会長	「居場所」に関する意見が多く、学童保育の延長や多様な体験ができる場などの必要性が挙がっている。併せて、貧困、不登校、遊びの制限、運動能力などの課題も指摘されている。 また、身近な本屋の不在についても意見があった。
委員	本を読もうと言っているのに、身近な場所に本屋がないという点も課題である。
副会長	子どもたちには食・睡眠・運動などの身体面の課題が見られ、さらにSNSやゲームの影響で実体験や遊びが減っていることが大きな問題となっている。これにより人間関係づくりが難しくなり、家庭や学校だけでは支えきれず、体験格差も広がっている。 そのため、社会全体で子どもが過ごせる居場所を整備し、学校を含め実体験の機会を増やすことが重要である。
会長	かつて子どもが解放される場であった公園などは安全面のリスクから利用しにくくなり、家庭内でSNSに時間を費やす傾向が強まっている。 子どもたちにとって何があったらいいのかと考えたときに、居場所という言葉が大きなキーワードになった。

C. 若者

会長	若者をテーマにどんな課題があるのかお考えいただきたい。
個人ワーク・グループワーク・付箋貼り	

会長	<p>若者も子どもと同様に集まれる場所や地域への参加の機会が少なく、現実世界よりスマホ・SNSに依存しがちである。</p> <p>また、市内の就職先不足や経済的困難などから闇バイトに流れる危険性も大きい。</p> <p>さらに、虐待家庭で育ち相談相手がいない若者もいることが課題にあがっている。</p>
委員	<p>多くの若者が強い不安や低い自己肯定感、失敗体験の多さから新しい一歩を踏み出せずにいる。発達課題や虐待経験など複合的な問題を抱えるケースもあり、どこから解決したらよいかが難しい状況である。</p> <p>「働く練習」をしてお金をもらえるようなものや、簡単な作業などがあれば、不安が大きい人たちが一歩踏み出しやすい。</p> <p>不安が大きい若者にとって、取り組みやすい作業は、一歩踏み出すきっかけになる。こうした機会により「自分にもできるかもしれない」という感覚が生まれ、実際に動き始める若者も多い。</p>
会長	<p>支援され続ける存在ではなく、自分が役に立てる、社会に貢献したい、評価されたいということが、自己肯定感の回復につながる。</p> <p>居場所と言われてもピンとこない若者には、「ここに来たらこういうことができる」といったメリットを伝えることが大事である。</p> <p>今回はでなかったが、ヤングケアラーなど複合的な課題を持つ若者もいるため、全体を見る必要がある。</p>

事務局よりAからCのまとめ

事務局	<p>子育て分野では、「預け先」「情報発信」「企業の取組」「ふれあい」「助成」「整備」の大きく6点が課題として整理された。</p> <p>子ども分野では、不登校など特定の対象に焦点を当てた居場所から、地域全体を含む広い居場所まで幅広く意見が集まり、さらに経済的・体験的な貧困、公園等の遊び場整備、相談先の不足、食育や健診、運動能力など健康面の課題も示された。</p> <p>若者分野では、現実世界に相談先がなくネットに依存する状況、就職先や結婚・出会いの問題、若者向けの居場所、社会参加や地域との関わりの不足などが主な課題として挙げられた。</p>
会長	<p>従来のつながりが弱まり、SNSやネットがその代替となっているが、結果として「どこにも居場所がない」という感覚が広がっている。行政や学校だけでは解決できず、民間や地域の力も不可欠だが、いずれか一方に依存しすぎても持続しないため、役割分担や広域的な連携が必要である。</p> <p>また、子ども・若者の声をアンケートや聞き取りで直接反映させ、大人だけで決めるのではなく当事者性のある計画づくりをめざすことが重要である。</p>

4 その他

「栗東市こども計画(仮称)」策定に伴うアンケートの実施について【資料2】

- ・事務局が資料2の説明を行った。

大宝東児童館の移設と児童館の再編について【資料3】

- ・事務局が資料3の説明を行った。

委員	地域子育て支援包括支援センターは「こども家庭センター」なのか。
事務局	事業名は地域子育て拠点事業だが、本市では「子育て包括支援センター」という名称で運営している。

委員	他の学区の住民も行ってよいのか。
事務局	子育て支援センターには各 1 名相談員を配置している。大宝東、金勝、治田東の 3 か所にいるが、出張相談によって巡回している。近くの児童館や子育て支援センターでも相談業務をしており、大宝東が統括を行うという位置づけである。 他の学区に行っていただいて問題ない。

- 5 閉会
・副会長挨拶

以上